

# バルセロナ日本語で聖書を読む会

月報第139号 [2016年9月]

## さあ、湖の向こう岸に渡ろう

ルカによる福音書 8章 22節

『そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さあ、湖の向こう岸へ渡ろう。」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。』

+...+

主の聖名を賛美します。バルセロナ日本語で聖書を読む会の月報第139号をお送りします。今月は北ドイツのハンブルクからいらした井野宣教師をお迎えして、素晴らしいメッセージをお取次ぎいただいきながら、1991年秋にスタートした当集会の25周年記念礼拝を捧げました。



### 「新しい掟」ヨハネによる福音書 13章 34-35節

主イエスはここで、「あなたがたに新しい掟(戒め)を与える。互いに愛し合いなさい」と仰いましたが、実はこの教えは旧約聖書(レビ記 19:18)にも書かれてあり、「新しい掟」とは思えない節があります。しかし注意深くこの2カ所を読むと、ヨハネ福音書は「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と続きます。この文の前半が新しい掟なのです。

世の中、自分を受け入れられずにいる人は多く、そういう人は他人も受け入れられない、愛せないという状況に陥りがちですが、そういう理想からほど遠いレベルの自分をそのまま丸ごと受け入れて愛してくれたのが主イエスその人でした。このイエス様の愛を心で感じることができたとき、私たちは自分を受け入れることができるようになります。

キリストが人間に示された「愛」はアガペー(無償)の愛。一方、通常私たちが言う「愛」は、AがBを愛した時、片思いではなくBからも自分を愛してもらいたいと願う双方向の愛であって、これを友愛、フィリアの愛と言います。エロスの愛もフィリアと同じく、双方向の愛情です。

でもアガペーの愛は神から人への一方通行の愛であって、受ける人がその愛に気づかなくても、無視されても、拒否されても愛し続ける愛です。そして主は、このような愛を互いに実行しなさいと言われました。つまり、ひとりひとりが神様から愛され、その愛を実感し、受け入れて、今度は隣人に流していく。そのように愛せよというのがここで言われる「新しい掟」です。ではどうすれば良いのでしょうか。

これを実践するためには、まず私たちが神様からの愛を十分に受け取る必要があります。神様の愛というのは、それを受け取った時に、心の中にぐんぐん浸透して広がってくるもの。受け取るまでは、そんなふうには感じるできないだろうと疑っていても、「もしそんなに私を愛してくださっているなら、その愛を感じてみたい。神様の愛が欲しいです」と祈った時にイエス様の一方通行の愛が流れ込んでくるのを実感するのです。

ところで、一般的に「誰かを愛する」と言うと、その愛とは「感情」ですが、聖書が言うアガペーの愛は「意志」です。あなたがどんな人だろうと、私はあなたを愛することを選択しますというものです。「あちらが〇〇をしてくれたら愛することができます」というケースは多いと思うのですが、そうではなく、神様がまず先に私達を一方的に愛してくださったように、まず自分から相手を愛することを決めて、相手に愛が伝わるよう試行錯誤して実行していく。愛は表現して行動して、はじめて伝わるものなのです。

それでは愛することから受ける報いとは何でしょう。ある牧師は「次第に自分の中に更なる愛があふれて、もっと相手を愛することができるようになる」とおっしゃいました。このようにしてキリスト者はますます愛情深い人となり、「イエスの弟子であることを皆知るようになる。(ヨハネ 13:35)」

キリスト者同士が愛を現していくと、周囲の人はそこに魅力を感じ、キリストの教えが本物だとわかるようになるのです。25年続いたこの集会が更にイエス・キリストの愛を実践していき、更に魅力あふれる会となって存続していきますように。

(ハンブルグ日本語福音キリスト教会 井野 葉由美 牧師)